

# オープンバッジ2.0/3.0に準拠した デジタルバッジサービスの大学への展開事例と 今後の展望について

株式会社デジタル・ナレッジ  
代表取締役COO 吉田 自由児

名刺交換



オープンバッジ 2.0/3.0に準拠した  
デジタルバッジサービスの  
大学への展開事例と今後の展望について

# 弊社紹介

|      |   |
|------|---|
| 会社名  | 株式会社デジタル・ナレッジ   |
| 設立   | 1995年12月  |
| 代表   | 代表取締役社長 はが 弘明<br>代表取締役 COO 吉田 自由児   |
| 従業員数 | 190名  |
| 所在地  | 【本社】 東京都台東区上野 5-3-4 eラーニング・ラボ 秋葉原<br>【西日本支社】 大阪府大阪市西区江戸堀 1-12-8<br>【九州支店】 福岡市博多区博多駅東 2-5-19<br>【ウズベキスタン】 タシケント(子会社 JDU) |
| 事業内容 | eラーニングの開発、サービス提供  |

LMS、学習アプリ  
教材制作ツール

製品

教材

コンテンツ制作・収録  
インストラクショナルデザイン

独自システム開発  
カスタマイズ  
システム連携

構築

募集

受講者募集  
リアル・Webプロモ

クラウド、ASP  
オンプレミス構築  
映像配信 CDN

クラウド

教室・IT機器  
タブレット

運用

運用設計  
支援スタッフ常駐・業務委託  
データ分析・レポート

環境

eラーニングの成功を  
幅広く支援します。

## ■マーケット別

ビジネスソリューション事業部

研修ソリューション事業部

**商用**  
(塾・各種学校)

**企業研修**  
(企業・官公庁)

ICT教材グローバル推進事業部

**学校教育**  
(小・中・高  
専門学校・大学)

文教ソリューション事業部

既存顧客向け  
サービス

ソリューションパートナー事業部

ラーニングセンタ事業部

共通基盤

プラットフォーム事業部

デジタルバッジ推進事業部

ITインフラ事業部

## ■エリア別

西日本エリア

西日本支社

九州エリア

九州支店

海外

国際開発室

## ウズベキスタン国に四年制大学Japan Digital Universityを設立

- 2020年に当社がウズベキスタンに設立し運営している正式な私立大学
- 学生は日本語を学び、日本語で授業を受けることができるように育成
- 学生はウズベキスタンのキャンパスから日本の大学の通信制授業を受講
- 日本とウズベキスタン両国の学位を取得し卒業可能(ダブルディグリー)
- 卒業時には日本企業への就職斡旋を実施
- **昨年、完成年度を迎え、初の卒業生を送り出し。全員が日本企業に就職予定**



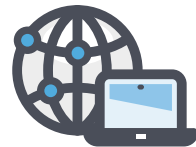
JAPAN DIGITAL  
UNIVERSITY

### 日本国内提携大学



日本学生

講義配信



インターネット

授業参加

### JDU



ウズベキスタン現地学生

オープンバッジ 2.0/3.0に準拠した  
デジタルバッジサービスの  
大学への展開事例と今後の展望について

## 本日の話題:

- 1: 証明書のデジタル化の意味
- 2: デジタルバッジソリューション ”Skill+”
- 3: デジタルバッジの大学での活用事例
- 4: デジタルバッジの活用アイデア

オープンバッジ 2.0/3.0に準拠した  
デジタルバッジサービスの  
大学への展開事例と今後の展望について

# 1: 証明書のデジタル化の意味



ある人が保有する資格や学習歴を第三者に証明するにはどうすれば良いか？

**従来の方法** 紙やカードによる証明

(医師免許証・運転免許証・学位記・単位修得証明書・学生証・住民票)

**課題:**

**偽造・コピー** コピーし書き換えて容易に偽造できてしまう

**真贋の確認困難** 証明書が本物かどうかを確認するのが困難

**流通に難あり** Webサービスなどで資格証明をするのがやや手間  
(証明書の写真添付?)

“脱ハンコ”に近い？

## 物理的な紙やカード、ICカードでの発行物

学位記卒業証明書

免許証

単位修得証明書

資格証明

社員証/学生証

マイナンバーカード

住民票

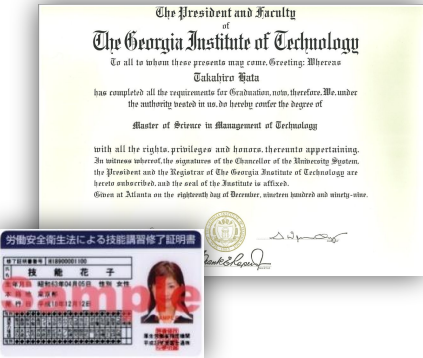
チケット

# DX化!!

従来の紙やカードの証書をデジタル化、  
スマホやネット上で証明することができる



## (1) 学習成果認証



## (2) 蓄積・配布・表示

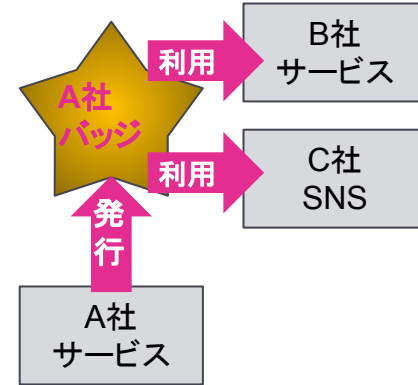


## (3) 検索可能

```
{
  "@context": "https://w3id.org/openbadges/v2",
  "type": "Assertion",
  "id": "https://example.org/beths-robotics-bac",
  "recipient": {
    "type": "email",
    "hashed": true,
    "salt": "deadsea",
    "identity": "sha256$c7ef86405ba71b85acd8e2e"
  },
  "issuedOn": "2016-12-31T23:59:59Z",
  "badge": {
    "id": "https://example.org/robotics-badge.j",
    "type": "BadgeClass",
    "name": "Awesome Robotics Badge",
    "description": "For doing awesome things wi",
    "image": "https://example.org/robotics-badg",
    "criteria": "https://example.org/robotics-E",
    "issuer": {
      "type": "Profile",
      "id": "https://example.org/organization.j",
      "name": "An Example Badge Issuer",
      "image": "https://example.org/logo.png",
      "url": "https://example.org",
      "email": "steved@example.org",
    }
  }
}
```

バッジにはデータが組み込まれており参照・検索できる

## (4) 相互運用可能

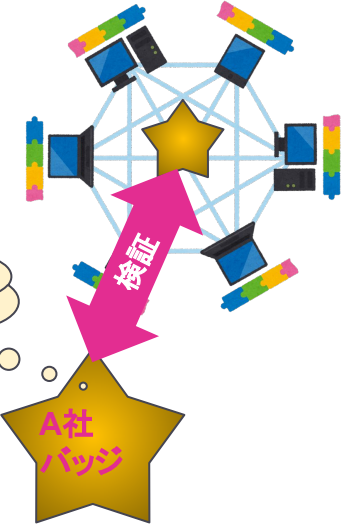


発行されたバッジは他社サービス、SNSなどに利用できる

## (5) 検証可能

真正性・完全性

サーバ・ブロックチェーン



このバッジ本物?

バッジが本物か、その人のものかを検証できる

## 2つのデジタルバッジの規格

| Open Badge 2.0          |           | Open Badge 3.0                            |
|-------------------------|-----------|---|
| 2018年                   | 仕様公開      | 2024年                                     |
| 現状広く流通                  | 流通        | これから                                      |
| eメールアドレス                | 本人認証      | DID/VC<br><small>※ブロックチェーンによる分散管理</small> |
| 中～低                     | 偽造・改ざんリスク | 極めて低い                                     |
| 1Edtech/IMS<br>(教育技術標準) | 標準技術として   | 1Edtech/IMS (教育技術標準)<br>W3C(インターネット技術標準)  |

## デジタル・ナレッジはOpenBadge3.0の賛同表明メンバーです

Open Badge 3.0が  
2024年5月27日に一般公開されました

### Open Badges Specification



Final Release  
Spec Version 3.0

Document Version: 1.0  
Date Issued: May 27, 2024  
Status: This document is made available for adoption by the public community  
This version: <https://www.imsglobal.org/spec/ob/v3p0/main/>  
Latest version: <https://www.imsglobal.org/spec/ob/latest/main/>  
Errata: <https://www.imsglobal.org/spec/ob/v3p0/errata/>

#### IPR and Distribution Notice

Recipients of this document are requested to submit, with their comments, notification of any relevant patent claim or rights of which they may be aware that might be infringed by any implementation of the specification set forth herein, and to provide supporting documentation.

1EdTech takes no position regarding the validity or scope of any intellectual property or other rights that might be claimed to cover the implementation or use of the technology described in this document or the extent to which any license under such rights might be available; neither does it represent that it has made any effort to identify any such rights. Information on 1EdTech's procedures with respect to rights in 1EdTech specifications can be found at the 1EdTech Intellectual Property Rights webpage: [http://www.imsglobal.org/ipr/imsipr\\_policyFinal.pdf](http://www.imsglobal.org/ipr/imsipr_policyFinal.pdf).

賛同表明メンバーとして  
日本から唯一  
弊社も参加しています

| Org name   | Date election made | Necessary claims | Type                                   |
|--|--------------------|------------------|--|
| Concentric Sky   | October 24, 2019   | No               | RF RAND (Required & Optional Elements) |
| Arizona State University   | June 21, 2022      | No               | RF RAND (Required & Optional Elements) |
| Temple University  | June 10, 2022      | No               | RF RAND (Required & Optional Elements) |
| Credly   | October 3, 2019    | No               | RF RAND (Required & Optional Elements) |
| Workday, Inc.  | June 10, 2022      | No               | RF RAND (Required & Optional Elements) |
| RANDA Solutions  | June 9, 2022       | No               | RF RAND (Required & Optional Elements) |
| Anthology  | April 16, 2024     | No               | RF RAND (Required & Optional Elements) |
| Unicon   | April 22, 2024     | No               | RF RAND (Required & Optional Elements) |
| Bowdoin College  | June 11, 2022      | No               | RF RAND (Required & Optional Elements) |
| American Association of Collegiate Registrars and Admissions Officers (AACARO) | April 15, 2024     | No               | RF RAND (Required & Optional Elements) |
| Desire to Learn (D2L)  | April 16, 2024     | No               | RF RAND (Required & Optional Elements) |
| Digital Knowledge EdTech Lab Inc.  | April 24, 2024     | No               | RF RAND (Required & Optional Elements) |
| IQC Italian Quality Company  | April 19, 2024     | No               | RF RAND (Required & Optional Elements) |
| Skybridge Skills   | April 16, 2024     | No               | RF RAND (Required & Optional Elements) |
| Navigatr   | April 25, 2024     | No               | RF RAND (Required & Optional Elements) |
| T3 Innovation Network, US Chamber of Commerce Foundation                       | April 25, 2024     | No               | RF RAND (Required & Optional Elements) |
| Territorium  | April 23, 2024     | No               | RF RAND (Required & Optional Elements) |
| Western Governors University (WGU)   | June 11, 2022      | No               | RF RAND (Required & Optional Elements) |

1. **学習証明・スキル証明** 特定のカリキュラムを実施した学習歴・学習証明や一定のスキル所有の証明を行うことができる。
2. **偽造・不正利用防止** 勝手に書き換えのできないサーバやブロックチェーン上にデジタルバッジの証明書があり、実質的に偽造ができず、真贋を調べることができる。
3. **デジタル化による利便性向上** 紙などの物理的な証明書を持ち運ぶ必要がなく、スマホで証明できる(例: ワクチン接種券)
4. **他のシステムとの連携** 学習歴・スキルを証明できることを生かし、他システムで活用することで、例えば履歴書の学習歴・高大接続・就職での活用・スキル証明、HRシステムによるジョブマッチング、SNSでの自身のスキル証明などを行うことができる。
5. **達成感の演出** 特定のコースの学習が終了することでデジタルバッジが発行されると達成感がある。さらにこれらを収集することで新たなバッジを取得する動機づけにもつながる。

オープンバッジ 2.0/3.0に準拠した  
デジタルバッジサービスの  
大学への展開事例と今後の展望について



# KnowledgeDeliver Skill+

## 2: デジタルバッジソリューション ”Skill+”

- Open Badge 2.0に加え、よりセキュアなOpen Badge3.0を等しく取扱可能。
- バッジの作成・発行、バッジの保持(ウォレット)、マッチングを実現。
- リスキリング時代、大学での単位認定や、企業でのジョブマッチングなどに活用いただけます。





- 一般的なスキルの証明にはOpen Badge 2.0を利用
- 大学の単位認定、卒業証明書、所属証明(学生証など)、資格証明など、よりセキュリティ要件の高いものはOpen Badge 3.0の利用を推奨

現在広く使われている  
Open Badge 2.0



低コスト

発行は比較的容易

よりセキュアな  
Open Badge 3.0



コストやや発生

発行はやや手間

2.0/3.0双方に対応  
利用用途の特性に応じて  
使い分け可能です

デジタルバッジを主軸に様々な用途でステップバイステップで活用いただき、それぞれのフェーズで最適なDX化の推進を支援します。

## デジタルバッジ発行



### デジタルバッジ発行サービス

#### 提供される価値：

- 学びの可視化
- 終了したシズル感の演出

## スキルマネジメント



### KnowledgeDeliverSkill+

#### 提供される価値：

- デジタルバッジによる必要とされるスキルの形式化
- 現状スキルの可視化
- ゴールとの Fit&Gapの可視化

## LMSで発行



### KnowledgeDeliver デジタルバッジオプション

#### 提供される価値：

- eラーニングの学習結果からシームレスにバッジ発行
- APIによる他システムからのバッジ発行 (Skill+)

## 独自カスタマイズ



### デジタルバッジデベロップメント

#### 提供される価値：

- デジタルバッジを活用した新サービスの開発提供

Open Badge 2.0 / 3.0それぞれご利用いただけます

## デジタルバッジ一覧



発行されたデジタルバッジが一覧表示 (オープンバッジ 2.0も3.0も同等に表示)

## デジタルバッジ詳細



発行者・有効期限・発行日・獲得条件・バッジ概要を表示

## デジタルバッジを公開



公開URLを共有

PDFファイルを共有

SNSに共有 (Facebook / Linkdin / X)

OB2.0

## 証明書をダウンロード



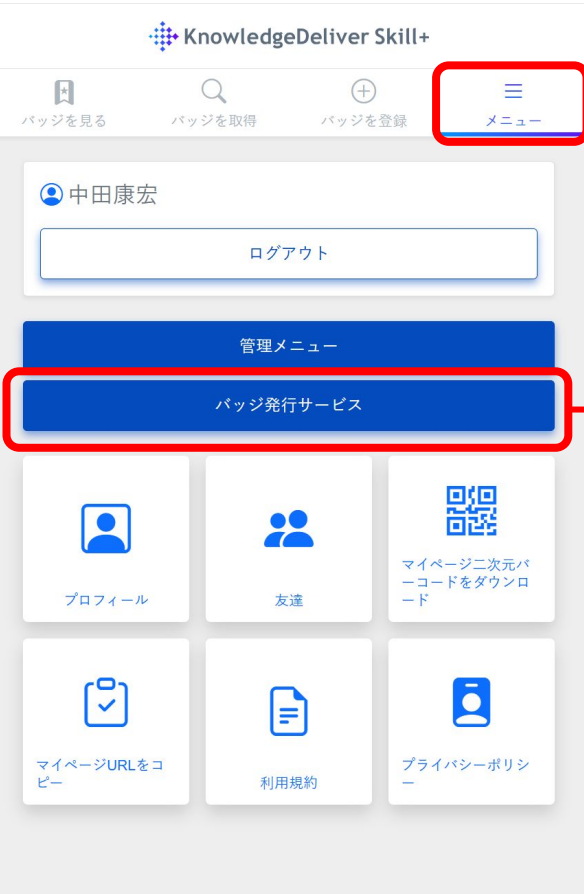
スマホで

パジャ!

スマホにダウンロード

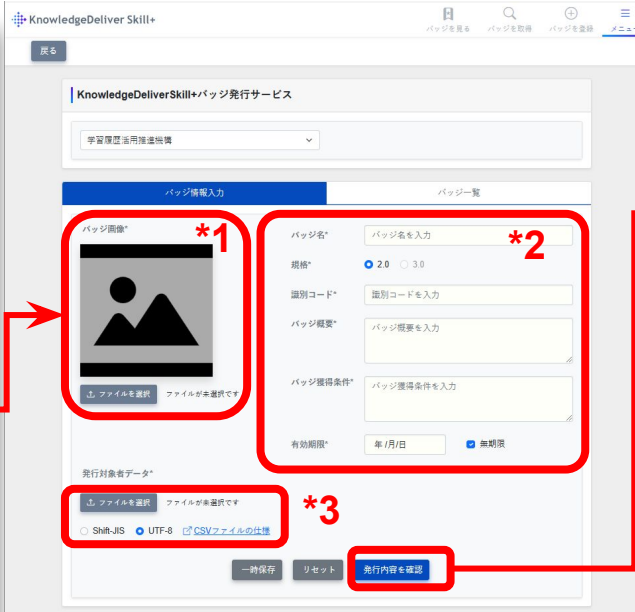


## 発行者向け機能(メニュー)



発行者のメニューにだけ表示される「バッジ発行サービス」機能を利用

## デジタルバッジ発行画面



バッジ画像\*1と必要情報\*2と発行対象者情報\*3を入力してバッジを登録発行

**\*必要情報(必須)**

バッジ名称・バッジ概要・獲得条件・有効期限

**\*発行対象者情報**

A列: 氏名 B列メールアドレス(CSVをインポート)

## 発行完了画面



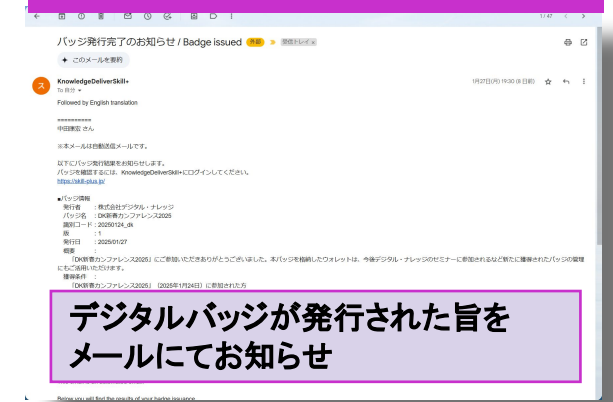
バッジが発行される

## デジタルバッジウォレット



発行対象者のデジタルバッジウォレットにデジタルバッジが表示される

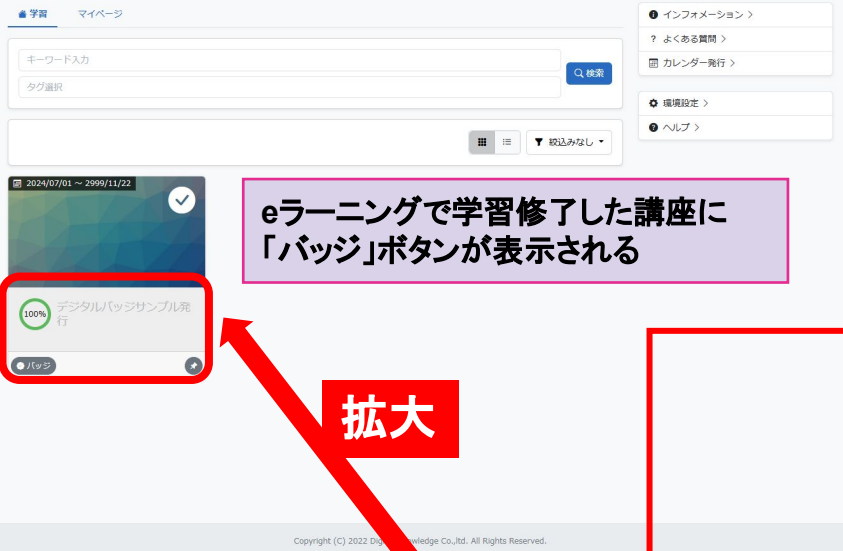
## 発行完了メール



デジタルバッジが発行された旨をメールにてお知らせ

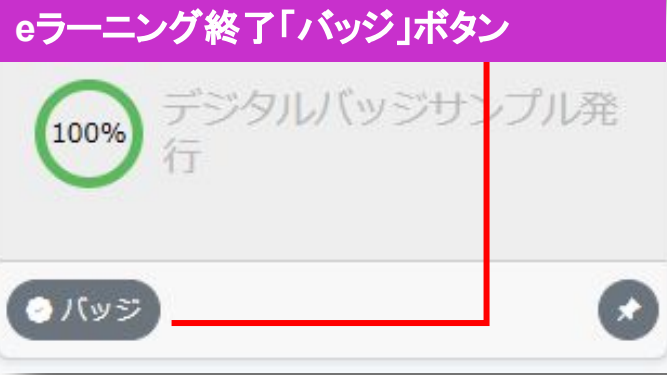
eラーニングの学習完了をトリガーに、自動でデジタルバッジを発行できます

## eラーニング講座一覧画面



eラーニングで学習修了した講座に「バッジ」ボタンが表示される

**拡大**



eラーニング終了「バッジ」ボタン

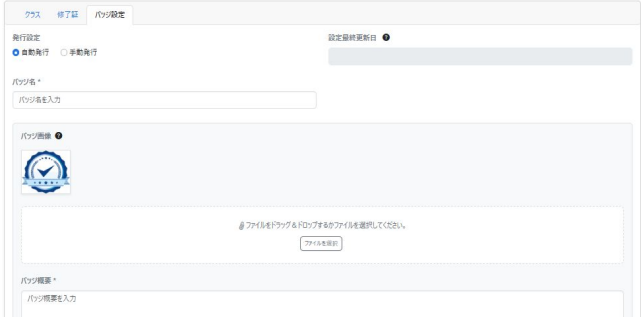
## バッジ情報画面



他のデジタルバッジウォレットに登録するためにダウンロードできる  
(標準規格Open Badgeに準拠したサードパーティのウォレットに読み込み可能)

eラーニングシステムで自動発行するために  
**管理者側に必要な2つの設定**

### ①発行するデジタルバッジの設定



### ②修了条件の設定

| 章 / 単元      | 前提条件 | チェックポイント | 割当件数 | 章の修了条件 / 合格ライン | 制限時間 | 回数制限 | 操作 |
|-------------|------|----------|------|----------------|------|------|----|
| 01, Word... | 無し   | ×        | -    | 0% 100% 80%    | -    | -    | 遷移 |
| Word...     | 無し   | ×        | 1件   | -              | -    | -    | 遷移 |
| Word...     | 無し   | ×        | 1件   | -              | -    | -    | 遷移 |
| 文章...       | 無し   | ×        | 1件   | -              | -    | -    | 遷移 |
| 書き...       | 無し   | ×        | -    | -              | -    | -    | 遷移 |
| 文章...       | 無し   | ×        | -    | -              | -    | -    | 遷移 |
| 読解...       | 無し   | ×        | -    | -              | -    | -    | 遷移 |
| 文章...       | 無し   | ×        | -    | -              | -    | -    | 遷移 |
| 文法...       | 無し   | ×        | -    | -              | -    | -    | 遷移 |
| リスニング...    | 無し   | ×        | -    | -              | -    | -    | 遷移 |
| スピー...      | 無し   | ×        | 10件  | F 80%          | 10分  | 無制限  | 遷移 |



吉田自由児

jiyuuj@digital-knowledge.co.jp

14 バッジ

バリューポイント

0 pt

友達申請する



(2024年) 個人情報保護定期教育【...



イエローbook研修



グリーンbook研修



DK新春カンファレンス2025



「ICT支援員という仕事」出版記...



DK学びの新領域forum2024



Wool appreciation...



Agile Explorer



TOKYOスマホサポーター



DKカンファレンス2024夏DAY1



KDユザ会\_DK



DKパートナーシップセミナー



2024年 新春お年玉デジタルバッジ



Badgr Web Explorer

こちらからご覧いただけます

<https://user.skill-plus.jp/users/228DCC23-1E2A-4850-8DD1-8ED4E9DAD24E/>

QRコードからもご覧いただけます



オープンバッジ 2.0/3.0に準拠した  
デジタルバッジサービスの  
大学への展開事例と今後の展望について

## 3: デジタルバッジの大学での活用事例

単一の講座修了だけでは不十分な、複数の講座群を受講修了することで得られる複合的なスキルを、デジタルバッジによって証明、共有



小学校プログラミング教育 実践編【21】

## 【概要】

- キャリアアップや生涯学習に役立つ講座をオンラインで学べる「インターネット配信公開講座」を開設
- LMS活用により在学生以外にも広く講座提供が可能に
- 修了条件を満たすことでOpen Badgeを発行
- 学修履歴の蓄積・確認はもちろん、受講料のオンライン決済、教材コンテンツ設定、講座配信、受講者管理まで、ひとつのシステムで一元管理

**放送大学キャリアアップ支援認証制度「小学校プログラミング教育 実践編」**

■担当講師(※所属・職名は収録当時のもの) 佐藤 幸江(放送大学客員教授)・倉澤 昭(放送大学客員准教授) ■本学担当専任教員 中川 一史(放送大学教授) ■講義概要 小学校プログラミング教育の位置づけや授業の実践や課題、教材の種類などの導入編を講義、学習活動の分類や教材・領域を視野に入れた具体的な事例を解説。 ■対象者 「小学校プログラミング教育 導入編」修了者。主に小学校教員、教育委員会、小学生の保護者向けだが、どなたでも受講可能。 ■授業の到達目標 小学校プログラミング教育の概要、実践、教材と研修について理解を深める。 ■成績評価の方法 成績評価は、修了テスト(100%)の評価により行う。修了テストは、各回の確認テストをすべて受験した者だけが受験できる。 (合格基準: 修了テスト100点満点中100点(5問中5問、全問正解))

発行日 2021/03/18  
 発行者 放送大学  
<https://www.ouj.ac.jp>

🔗 リンクをコピー 📄 バッジをダウンロード  
 📄 認証状をダウンロード

👤 バッジ所有者情報  
 メールアドレス sample6@xxx.ac.jp  
 氏名 デジタル太郎

📄 獲得基準  
 放送大学キャリアアップ支援認証制度「小学校プログラミング教育 実践編」の講座修了



弊社がウズベキスタンで展開する大学: Japan Digital Universityの卒業証書としてデジタル卒業証書を発行



### 【概要】

- 卒業生に紙の卒業証書に加え、Open Badge 2.0によるデジタル卒業証書を発行
- 大学卒業をデジタルでも可視化し、SNSなどで共有することで自己アピールに利用
- 学内資格や特別講義の聴講などにもデジタルバッジを適用し、学習の可視化を行いモチベーション向上に展開
- 将来的には全科目の単位証明にも展開予定

米国大学との共同教育プログラムの履修証明として、セキュアなOpen Badge 3.0でデジタルバッジ発行



## 【概要】

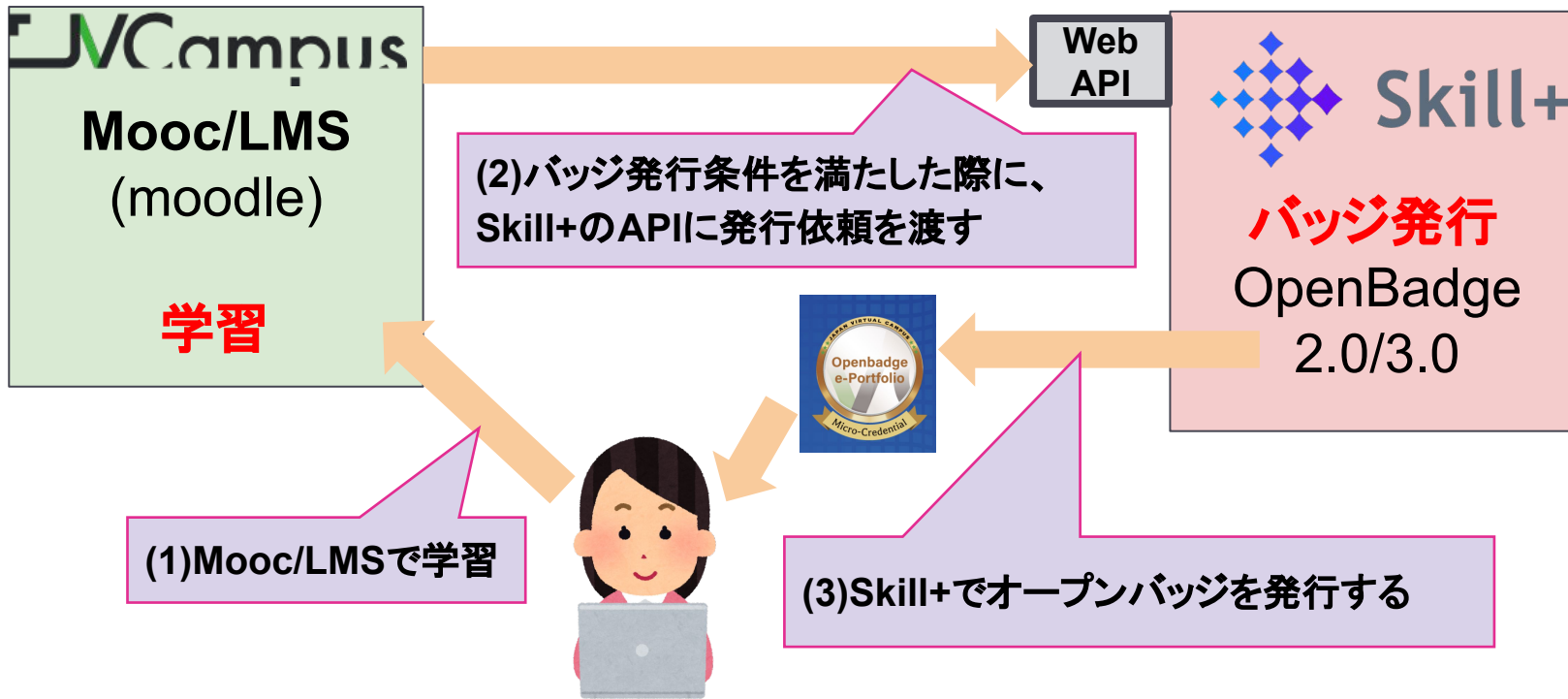
- 筑波大学様がアメリカの大学と共同教育プログラム実施、筑波大学の学生は日本にいなからアメリカの大学プログラムを受け、アメリカの大学の学生も同様に筑波大学のプログラムを受ける。
- その履修証明として、よりセキュアで改ざんリスクのないOpen Badge 3.0を発行
- バッジとして確認できるだけでなく、そのバッジを持ってそれぞれの大学で履修証明として単位に繰り入れる。



日本の高等教育を世界中に発信するオンライン教育プラットフォーム**JV-Campus**にて moodleベースのMooc/LMSと連動し学習終了に合わせてOpen Badge 2.0/3.0を発行

【概要】

- moodleベースのシステムから Skill+のAPIを利用しオープンバッジ2.0/3.0を発行
- 独自のeポートフォリオシステムにデジタルバッジを掲載し、教育・インターンシップ・就職活動で利用



## ウェビナー申込登録について

本ページでは2025年新機能説明会のプログラムおよびお申し込みについてご案内させていただきます。

【日 時】 2025年2月26日(水) 14:00-15:30

【場 所】 オンライン開催(ZOOM)

【ウェビナー申込登録】 [https://zoom.us/webinar/register/WN\\_j0\\_EDweySheXCBYN5Z29nA](https://zoom.us/webinar/register/WN_j0_EDweySheXCBYN5Z29nA)

(人数を超過した場合はご登録頂けない場合があります。お早めにご登録ください)

【参加費】 無料

## プログラムについて

### JVCampus 新機能説明会

JV-Campus システムから発行するデジタル学修証明

①オープンバッジ 2.0/3.0 発行機能

オープンバッジが掲載できる新世代の e ポートフォリオ

②JV-Campus e ポートフォリオ



明日2月26日、  
JV-Campus新機能説明会  
をオンラインで開催

ご関心のある方はお申し  
込みの上、ご参加くださ  
い。

学びを軸に大学1・2年生が企業と交流できるキャリア形成支援サイト「My CareerStudy」にて特定の学習成果を収めた学生にデジタルバッジを発行



【概要】

- 大学1・2年生から「自分を知り」「学び」、さらには「企業と交流できる」サービス
- 社会人基礎力診断などのアセスメントの診断結果に基づいて、自身にマッチした企業からの実践的な講座を受けたり企業セミナーやワークショップに参加
- 自身のキャリアに対する考えを明確にし、職業や働き方がわかることで企業とのマッチングを図る
- デジタルバッジにより学習意欲を高め、スキルや経験を可視化することで正当に評価され企業とのマッチング精度を高める

Web申請により24時間365日、大学の証明書をコンビニで受け取れるNTT西日本様の証明書発行サービスへのデジタルバッジ発行機能組み込みを目的としたPoCを開始しました



昨今、ペーパーレス化が進む中、デジタルトランスフォーメーション(DX)の一環として、卒業証明書など学校で発行される各種証明書をデジタルで発行・提出するケースが増加しています。このようなデジタル証明書においては、真正性が極めて重要となります。

このニーズに応えるためにNTT西日本は、日本初のオープンバッジ3.0規格に準じた『Skill+デジタルバッジ発行サービス』を採用しました。このサービスにより、より信頼性の高いデジタルバッジを発行できるだけでなく、『KnowledgeDeliverSkill+』が提供するWebAPIを活用した連携により、利用者に余計な画面を経由させることなく、『証明書発行サービス』からシームレスにデジタルバッジを発行できる点も大きな選択理由となりました。

～プレスリリースより～

オープンバッジ 2.0/3.0に準拠した  
デジタルバッジサービスの  
大学への展開事例と今後の展望について

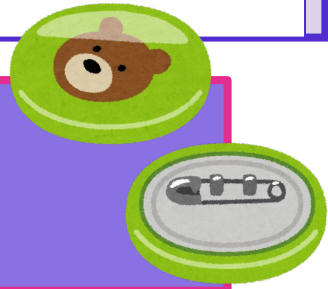
## 4: デジタルバッジの活用アイデア

- Skill+で出来ること、デジタルバッジの概要はご理解いただけたと思います。
- では、このSkill+やデジタルバッジをどのように活用して、どのようなメリットを享受できるでしょうか？
- 次ページ以降で私なりの見解をご紹介します。

デジタルバッジ  
どう活用を  
しょうか？

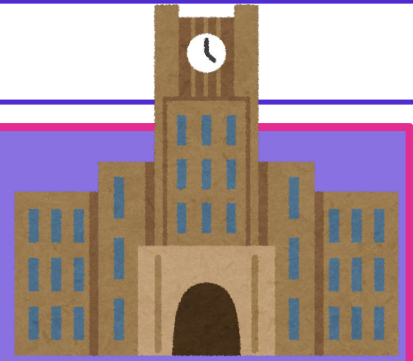






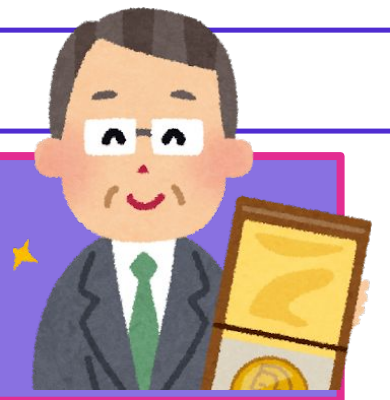
学校様、教育サービス企業様、企業研修担当様、  
まずは修了証としてデジタルバッジを発行してみませんか？

- 1. 学習の証 (あかし)として** 学習終了を証明する修了書がもらえると、それだけで受講者の満足度は高まることが期待されます。
- 2. 最新技術、DX化への対応アピール** デジタルバッジというDX化対応したサービスにいち早く対応したことをアピールできます。
- 3. 紙発行からコスト削減** 既に紙などの物理的な証明書を発行している場合、発行・発送コストを削減できます。
- 4. 対応プラットフォーム展開** Open Badgeに対応したSNSや各種サービスに、このデジタルバッジを活用いただけます。



## 大学様の単位をデジタルバッジで証明しませんか？ 大学間連携や高大接続に活用いただけます。

- よりセキュアなOpen Badge3.0による単位発行** 大学の単位を適切に扱い保持するために、Open Badge2.0だけでなく、よりセキュアなOpen Badge 3.0の導入も検討すると良いでしょう。
- 大学間連携として** 単一の大学のみ履修し卒業するというだけでなく、国内外の他大学で受講し卒業する新たなスタイルが生まれつつあります。他校での単位を管理するのにデジタルバッジは適しています。
- 高大接続(プロモーション)として** 大学の授業そのもの、もしくは高校生用にアレンジした講座を高校生に配信することで大学の授業を体験してもらいます。修了証として発行したデジタルバッジは高校生の手元に残り学校の印象を維持し、さらに追加で受講していただく機会や入学動機にもつながります。
- 高大接続(単位認定)として** 高校生が大学の科目等履修生として大学の授業科目を受講する取組が広がっており、その成果として取得した大学の単位は大学入学後に既修得単位として認定を受けることも可能です。この単位の認定手段としてデジタルバッジを活用いただけます。



資格証としてデジタルバッジを活用しませんか？  
よりセキュアなOpen Badge 3.0もご利用いただけます。

- 資格証提示の特典** 紙やカードなどの資格証は持ち運ぶのが大変です。一方、デジタルバッジはスマホに入り持ち運びやすい形態です。例えばイベント会場で証明書を見せると参加費割引や、提携店で物販10%オフといったキャンペーンを行うこともできます。
- アップセル・クロスセルの機会の創出** 既に自団体の資格を取得しデジタルバッジを取得した方に、一斉に連絡を取るような新機能を検討中です。これにより上級資格や関連資格の案内を行い、アップセル・クロスセルを誘導することができることでしょう。



## 全スタッフのスキルの可視化、業務遂行のための底上げ、リスキリング対応として活用しませんか？

- 1. スキルの棚卸し・可視化** 各スタッフの公的資格やスキル、経験などをデジタルバッジ発行することで可視化、誰がどのようなスキルを有しているか整理することができます。
- 2. 社内認定資格、社内での受賞も可視化** その会社さん独自の社内資格は業務を行う上でとても重要なスキルでしょう。さらに社長賞などの社内の賞もその人のスキルを示すうってつけのものです。これらもデジタルバッジとして扱い、スキルとして評価軸に載せましょう。(弊社で運用中)
- 3. 個々のスキルアップの方針検討** どのようなスキルを有していて、これまでどのような経験をしてきたのか。それが可視化されることで、将来の成長の方向、具体的なプランを検討する材料になります。また、スキルアップのレコメンドを自動で行うような新機能を検討中です。
- 4. 人材配置の材料として** それぞれのスキルをデジタルバッジで可視化しているので、欲しい人材像から、該当する人をピックアップすることができます。スキルに応じた適材適所な人材配置をよりスムーズに行えるようになるでしょう。



## バッジを活用し新たなサービスを立ち上げましょう！

- 新サービス** デジタルバッジは学習履歴やスキルを証明することができ、さらにオープン化していることから、弊社発行のデジタルバッジだけでなく各サービス発行のデジタルバッジも等しく扱うことができます。このデジタルバッジを活用した新サービス・新ビジネスを立ち上げる際に、弊社のデジタルバッジソリューションをお役立ていただけます。  
例: **人材マッチングサービス・履歴書サービス・大学間連携サービス・証明書発行サービス**
- バッジによる囲い込み** デジタルバッジは発行団体以外でも活用できるオープンなものですが、オープン性を生かしつつも、バッジ発行と活用を囲い込んだサービスとして立ち上げることもできます。このような独自サービスを立ち上げる際にも、弊社のデジタルバッジソリューションをご活用いただけます。  
例: **自社ブランドによる教育トレーニング→就業サービス**  
他社事例: **ウールマーク・ラーニングセンター** (ブランドを消費者・関係者に知ってもらう)

# ありがとうございました



名刺交換  
こちらから

- ・Eight
- ・Sansan
- ・名刺画像



株式会社デジタル・ナレッジ  
吉田 自由児